

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201658		
法人名	(株)ファミーユ		
事業所名	グループホームつぐみ下島		
所在地	静岡県駿河区下島447-2		
自己評価作成日	令和 5年 9月 10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2294201658-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 10月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の思い願いを第一に考えるケアの実践を理念に掲げ、たとえ認知症があってもご利用者の今までの生活や大切に思っている事をしっかり意識し、居心地の良い環境、対応をするよう心掛けています。また、日々の生活の中で皆さん1人1人が役割を持ち、食器洗いや拭き、洗濯畳み、階段掃除、玄関掃除等、毎日欠かさずお手伝いして下さっています。
 日中は、買い物や散歩、ドライブなど気候の良い日はできるだけ外出し、地域の方に触れる機会を作っています。定期的にボランティアの方も受け入れ、フラダンスや太極拳などの披露や参加を促しています。
 ハッピープログラムという企画を継続し、お誕生日の日にご本人の希望を叶えるよう努力しています。
 ご家族の面会も出来る限り中止をせず、いつでも会える機会を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、幹線道路から少し入った商業施設や自然が程よくマッチしている所に立地し、散歩に適した陽当たりの良い環境である。食事は法人の栄養士が作った献立を参考に、職員が買い物をし、手作りで職員も同じものを一緒に食べている。利用者と一緒に食材を買い出しに行ったり、ドライブに出掛けたり、散歩に出掛けるなど、職員は一貫して利用者ファーストの理念で接しているため、利用者はのびのびと穏やかに暮らしている。コロナ禍でも感染対策をして家族との面会を継続した。また、年に2回、管理者と社長のそれぞれに面談があり、意見が言い易い環境を整え、毎年4月には社長から設立の経緯や理念について話があり、職員は理念の実践と利用者の思いを大切にケアを心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者の思い願いを第一に叶えるケアの実践の理念を達成する為、理念を皆で共有し、サービスに反映するよう努力しています。理念に基づき、毎年4月の職員会議で1年間の目標を立て、年度末に成果の話し合いをしています。	年度初めに社長から理念の再確認について話があり、理念に基づいて年間目標を立て、実践し年度末に評価をしている。また、個人目標も立て半年に一度の面談で確認、評価をしている。管理者と職員は常に理念を意識して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への挨拶、マナーなど会議等で地域密着型としての職員の役割を伝えながら、実践しています。運営推進会議や近隣のでんでん体操に参加し交流したり、今年の町内会のお祭りにも参加しました。	自治会に加入し、チラシや広報で地域の情報を得ている。事業所には地域交流室があり、地域住民の相談に応じたり、10月7日に行われたお祭りにも出かけている。近隣の方からすいかやタオル等の差し入れを頂いたりする関係性が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員様から相談を受け介護保険サービスに繋げたり、施設の報告を継続しています。先々月、近隣の方から認知症の方のご相談を受けました。その後、民生委員の方と訪問し、その後、包括支援センターに繋げました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組んでいる内容や介護事故についても報告し、開かれた施設であることを伝えていきます。民生委員の方にも、いただいた情報を基に事業所の防災対策について見直したり、この地域での無人販売の特徴などを教えていただき買い物に出かけました。	民生委員が運営推進会議に参加し、意見交換が行われ、出された意見は運営に活かされている。事業所の報告は事故報告や研修内容などを記載し、議事録は参加者や参加した家族に配布し職員会議で報告を行っている。	コロナが5類になり、対面開催ができるようになったので自治会長やその他地域の方に声をかけ、参加者を増やして意見交換を活発に行い運営に活かせるよう望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や高齢介護課に様々な相談をさせていただき、また、包括支援センターにも現在の利用状況を報告、包括支援センター主催の研修にも参加しています。(成年後見制度や高齢者虐待の研修等)	行政の関係課とは出向いたり電話をして意見交換や報告を行い、興味がある研修のメールやお知らせがあると参加している。グループホーム連絡会にも加入し参加している。包括支援センターとも日常的に協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も夜間以外は開放しています。年2回以上の研修、各事業所ごと4半期ごとの会議にて話し合うと別に委員会を設け、各事業所のケア状況の確認、身体拘束等廃止に向けた取り組みをしています。センサーや4点柵などについても必要な理由や他に代替えが無いかなど話し合いをしています。	指針、マニュアルは整備され研修で内容を学んでいる。委員会は各事業所1人が参加して開催され、その内容は職員会議で報告、周知されている。研修は年に2回行われ、身体拘束の基本と事例を検討している。	

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修として虐待をテーマに行い、知識を学んだり、虐待にあたる行為がないか、ケアの見直しをしています。委員会でもスピーチロックなどについて話し合ったり、今年度の研修で職員振り返りアンケートを作り配布、集計する予定です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、年間研修内容に取り入れており、今年は5月に成年後見制度や日常生活自立支援事業について勉強会を行いました。包括支援センターで開催した研修にも参加しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、また改定の際には、管理者からできるだけ詳しく説明を行い、またご利用者やご家族の希望をできるだけ取り入れたり、悩みや困りごとを解決できるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	つぐみ便りに個人へのコメント欄があり、居室担当職員が1ヶ月の様子を伝えています。ご家族からはコロナ禍における面会について問い合わせがあり、ご利用者の発熱状況などご連絡したり、自粛のお知らせなどもこまめに連絡しています。	コロナ禍でも感染対策をできるだけ面会ができるようにしていた。また、写真を多く載せ担当職員のコメント付きのお便りを毎月、家族に送付し、利用者の状況をこまめに電話で報告も行っている。外部評価の家族アンケートでは高い評価を受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、職員からの意見を聞き反映しています。また、各事業所の管理者が毎月会議を行い、労務や人事などについて話し合いをしています。個々の家庭環境やプライベートにも配慮し、その職員の心情にに合わせて人事課や課長が個人的に話をしています。	職員会議で活発に意見があり、職員からは意見を述べやすく、情報交換ができていたという確認できた。職員は管理者と社長のそれぞれに半年に1回面談があり、その場でも意見を言うことができる。また、管理者は職員にまめに声かけを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を行い、管理者は職員の自己評価シートを参考に、個人の努力、能力、適正などを評価し、職員がやりがいや向上心をもってもらえるよう、賞与や役職などに反映している。今年から、研修計画の項目を増やし、今後本人の目標に合わせ、面談、フォローをしていく予定です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内に研修部を設け、新人研修や主任、副主任向けのスキルアップに向けた研修を定期的に行っている。また定期的に人事課で話し合い、該当する職員には、外部研修にも参加してもらっている。		

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加したり、他の同業者の管理者やケアマネージャーと連絡先を交換し、情報交換などを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	3月に女性の方がご入所されました。もともと基礎疾患があり、入院にて廃用症候群との診断を受け心身共に体力気力がなく、入居についてもかなり不安があったようでしたが、時間をかけて話を伺い、ご家族や知人の協力も得ながら生活していただいています。現在、任意後見人を依頼し、今後の相談を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規のご利用者のご家族より、不安や要望をお聞きし、できる限りの対応をしています。また、電話やメールなどを使用しながら近況を伝えたり写真をメールで送ったりしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の持っている力やご家族の力を見極め、支援する内容を職員と話し合い、共有しながらサービスを提供しています。訪問マッサージなどを導入しながら、浮腫みの緩和や社会的コミュニケーションができる環境も作っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者との関わりの中で、ご本人の思いや要望をお聞きしながら、ご本人の持っている力や興味などを踏まえて、生活の役割をそれぞれ作っています。コロナも収まり、買い物も一緒に同行し荷物も一緒に持つなど協力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に近況を伝えながら、職員の一方的な感情にならないようにご家族の思いや要望をお聞きしながら対応しています。できる限り面会制限をせず、いつでも会えるよう対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が希望する会いたい人や行きたい場所や馴染みの場所を大切に、支援しています。ご利用者が長く関わってきた近所の俳句仲間や宗教の友人と会う機会を作ったり、電話で会話を繋いでいます。	利用者が発する希望を叶えるように職員は傾聴を心掛け、聞いた内容は職員間で情報共有している。面会時間も制限を設けず対応し、多数の面会者が訪問したケースもあった。毎年なじみの人や関係者に年賀状を出す支援も行っている。	

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中で、それぞれのご利用者の暮らしてきた環境の違いから意見の食い違いはあるが、職員が間に入り、両者の思いを汲みながらご利用者同士がうまく関わられるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、ご家族との関係性はつながっており、時々ご相談の連絡が来たり、昔話をしながらその方を偲んだ思い出話をすることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、ご利用者とコミュニケーションを取りながら、ご利用者の要望や希望を聴き取り、職員や管理者、看護師と話し合ってお本人の意向をできる限り反映しています。食事介助が必要なペースト食の男性のお誕生日にノンアルコールのケーキを召し上がっていただきました。毎月お菓子購入を楽しみにしているご利用者もいます。	利用者には担当職員がいて、お便りのコメントや誕生日に行われている「ハッピープログラム」という思いを叶える日に向け、利用者の意向に耳を傾け、聞き流さないという姿勢が感じられる。体調変化にも医師の意見を聞いてすぐに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供前や、ご家族との面談でアセスメントを十分に取、生活歴や馴染みの暮らし方を職員で共有し、反映しています。もともと畳で生活していた方の生活に合わせて絨毯を敷き、お布団を使用している方もいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の暮らしの様子を毎日申し送りで伝えたり、介護記録や申し送りノートに記入し、全員で把握しています。緊急時はグループラインを使用し、できるだけ職員が早く共有できるよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議のカンファレンスで、ご利用者の介護計画の見直しを行い、また日々のケアの悩みや課題を話し合っています。計画作成者が居室担当(介護職)と一緒に1人のご利用者のご意向を中心に話し合い、管理者に報告相談しながらケア計画を作成しています。	毎月の会議で変化がある利用者優先で3~4人のカンファレンスを行っている。モニタリングは担当職員が行い、計画作成者は会議の内容や日報、モニタリングを見て担当職員と意見交換をし、第三者の意見や家族の要望を聞いて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今までは手書きの記録でしたが今年度からiPad化し、血圧、食事量、排尿回数、入浴有無など、一眼でわかる独自のチェック表を作成し職員同士が共有しています。24時間シートを活用し、職員間で共有し合っています。		

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の提携訪問診療、歯科往診にて医療ニーズに応えています。また筋肉の拘縮予防、機能訓練、精神の安定を図るよう、訪問マッサージも取り入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや100円ショップ、訪問販売のパン屋さんなどを利用し、ご自分で選んだり精算をして社会の方とつながりを持てるよう支援しています。最近では、毎週パンの訪問販売を使って、普段買い物に行けない方も選んだりする機会を作っています。皆さん楽しみにされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の提携訪問診療を依頼し、ご利用の心身状態の変化や薬の変更についてなどをドクター、看護師、ご家族、職員と相談しながら決定しています。職員が診療に合わせて事前に様子や質問を用紙にまとめ、ご家族に確認してから診療、薬の変更を決定しています。	昨年1月に協力医を変更し現在は7人が協力医に月2回の訪問診療を受けている。2人は家族対応でかかりつけ医療機関に通院している。協力医は24時間対応で、受診時は職員が利用者の体調で気がかりなことをまとめておき、事業所の看護師が立ち会う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の日々の心身状況に変化があれば、看護師に連絡、相談し、訪問診療のドクターに報告しながら適切な受診や看護を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者の心身状態に変化があった場合は、診療日以外でも、電話などで提携医に連絡し、指示を仰いでいる。また、内科や皮膚科以外の特殊な医療については、定期受診をしたり、ドクターと連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、週末期のケアについて、ご家族や主治医と話し合い、ご本人、ご家族の思いを中心に最期の過ごし方を決定しています。また、医療加算を受けており、定期的に看護師がご利用者の様子を確認し、記録しています。できる限り面会も行っています。	入居時に重度化・終末期の方針について説明し同意書をもらい、同意書は定期的に変更を更新している。重度化すると医師が家族と事業所に現状を説明し、その後、家族の要望を聞き、話し合っ方針を決めている。看取りの研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月開催しているホーム会議の研修の年間行事に、連絡体制や緊急時の対応方法を学んだり共有しシミュレーションをしながら緊急時に備えています。各事業所には緊急時対応マニュアルを電話口付近に張り出してあります。		

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を実施しています。地震や津波、火災などの訓練も想定に合わせて実施しています。社内で防災委員会を作り、委員による定期的な会議を行い、各事業所の備蓄や発動機などの調査、運転の仕方などを職員に指導している。食料なども期限切れを確認し、入れ替えを行なっています。	消防署と連携した訓練や地震から火事、津波想定などの訓練を年に2回以上行っている。社内の防災委員会に担当職員が参加し事業所の訓練の計画、指導にあたっている。食料や備品はリストに記録し定期的に補充している。	災害の想定は色々考え、実施しているが、夜間想定などの訓練が不十分だと反省が出ているので、早めに取り組めるよう整備され、合わせて長期停電の対応や地域との連携も進められるよう望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム会議の研修の年間行事にある接遇マナーについての研修、新人職員向けの研修を行っています。介護はサービス業であることを常に職員に伝え、日々のケアの中で接遇マナーに気を配りながら対応しています。	接遇は新入社員研修や事業所の年間研修計画に取り入れ、意識付けできるよう毎月の会議でも取り入れている。課題のある職員にはその都度個人に注意し、会議で取り上げて他の職員にも注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中でご本人の意向を反映し、ご本人の選択が必要な場合は、ご本人の返事をゆっくり待つよう心掛けています。ご利用者のお誕生日には、食べたい物や行きたいところを聴き取り、希望を叶える「ハッピープログラム」も継続しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	窓際で過ごしたい方、ご本人の寝る時間のルーティンがあったりとそれぞれご利用者の過ごし方は異なります。当施設は細かなルールは作らず、ご本人のペースで過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、ご本人の着たい洋服を着たり、定期的に委託で美容師さんを招き、希望者にはカットしたり、美容院でパーマやカラーをする方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、ご利用者も職員も一緒に食事を摂るよう心掛けています。その中で好きな物や食べたいものを聴き取り、反映したり、食事の後もご利用者も一緒に食器を洗う方、拭く方などそれぞれに役割を決め、できる力を発揮していただいています。	社内の栄養士が献立を立て、職員が食材を購入して手作りにしているが、食べたい物や季節の物に臨機応変に献立を変える事もあり、職員も同じ物を一緒に食べている。果物が好きな利用者が多いのでおやつに取り入れるよう心掛け、食器洗いなども利用者のできる範囲で手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し、量の調整や食べやすい物の提供を行っています。また、水分量が足りない方にも、好きな飲み物やのど越しの良い物をご用意しています。栄養のバランスも確認し不足の方には補助食品なども提供しています。		

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを必ず行ってもらい、口腔内のトラブルが無いよう心掛けています。介助が必要な方にも、できるところまではご本人に磨いていただき、後で介助しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者の排泄の力、パターンを確認し、出来る限りトイレでの排泄ができるよう促しています。できるところはご本人に行ってもらい、大変なところのみ介助しています。	個々の排泄パターンを把握して、できるだけトイレで排泄をしてもらえるように支援している。自立の利用者は自由にトイレに行ってもらい職員は見守りをし、報告してもらっている。夜間は離床センサーで利用者の睡眠を妨げないように配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表では、排便の様子なども記録、観察し共有し、できるだけ自然排便ができるよう、運動や散歩を促しています。手作りヨーグルトは継続し、定期的に朝食にて提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後どちらでも入浴ができ、ご利用者の好みに合わせて清潔を保持しています。立位が困難な方でも浴槽に入れるよう、2人介助で対応しています。	週に3回、主に午前に入浴してもらっているが希望があれば午後入浴も対応している。今は入浴を嫌がる利用者はいないので、職員と会話しながら入浴ができるように時間に余裕をもち、入浴剤など複数準備して入浴を楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの就寝時間が異なり、ご本人のタイミングで居室に向かわれます。また、高齢や足の浮腫み、希望者には、日中お昼寝を促したり、その方の体調に合わせて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と薬局との連携を図り、薬の飲み方や注意事項などは職員間で共有しています。些細な事でも心配事があればドクターや看護師、薬剤師に相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付けなど皆さん積極的に参加されています。その方それぞれの役割を持ってもらい、参加しています。また、食べたいものを聴き取り提供したり、気分転換に散歩も定期的に行っています。		

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と定期的に散歩に行っています。少人数交替でできるだけ大勢の方が参加できるよう促しています。最近は気温が高いので熱中症も心配な為、ドライブなどを増やし、気分転換を図っています。	週に1～2回、利用者2、3名とドライブに出かけたり、食材購入で買い出しに出る際に一緒に外出することもある。普段はベランダにて景色を眺めたり、職員と15分程度散歩して気分転換を図れるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を伝える事ができるご利用者には一緒に買い物に行くなどしてお金の支払いも一緒に行っています。お金の管理はできない方も多くいますが、買い物の際にレジでの精算はお財布を渡し、支払う方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を自宅に送る企画を行っています。ご家族やお世話になっている方へ今年も送りました。また、日ごろなかなか会えないご家族へお手紙を書いて郵送しました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面係りが、毎月季節や行事に合わせた飾りをご利用者と作り、張り出しています。色や飾りつけに配慮し、イベントでは、飾った壁面の前で写真を撮ったり楽しんでます。また、調理の匂い、音を感じられるよう対面キッチンになっており、テレビの音やBGMを流して居心地の良い空間作りに努めています。	南北に窓が多くあり、開放的で明るくテーブルやソファが程よい間隔で配置され利用者は思い思いの場所で寛いでいる。オープンキッチンで換気も工夫されているが、空気清浄機も2台設置されている。清掃は主に職員が行い、利用者も手伝いをしてくれ、消毒は夜勤者が念入りに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、窓際やソファなど居心地の良い場所やお気に入りの場所があります。また、席の配置も、気の合う仲間と同じテーブルにして楽しんでいただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって好きな物や使いやすい物、馴染みのある物を飾っていただいています。お仏壇や写真など、ご本人の思い思いの物が置いてあり、居心地の良い場所となっています。	居室ごとにカーテンと壁紙の色を変え、入り口に花の名前のプレートを取り付け、更に自分の部屋がわかるように利用者の似顔絵や写真が掲示されている。調査当日は、2人の利用者が自室を進んで案内してくれ、ぬいぐるみや写真を見せてくれた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設はバリアフリー対応です。また、居室には、職員が書いた似顔絵と表札があります。トイレもわかりやすく書いて張り出しています。		